

科目名	発達障害児心理学Ⅱ（知的障害者）					単位	2.0
担当教員	繁昌 成明						
授業形態	講義	開講期間	後期	配当年次	2	授業番号	1420

●授業のテーマ

障害児の心理と治療教育に関する基礎知識を学ぶ。

●到達目標

発達障害児心理学Ⅰを基本として、自閉症スペクトラム障害を中心に学ぶ。また、具体的対応と心理・療育・福祉の連携等基礎的事項を身につける。

●学習内容(授業概要)

障害児心理学は、医療、教育、福祉など多くの領域と密接に関連した科目です。障害の分類については、知的障害、身体障害、情緒面での問題などと絡み合っており現時点では明確な区分が出来ていない状況です。

ここでは発達障害という枠の中で障害をとらえ、まず乳幼児期からの発達過程を概観し、そこから障害の発生・発達変化・発達上の問題をとらえていきます。

現在は障害児の早期発見・早期療育がうたわれ、ノーマライゼーションの理念も知られていますが、発達障害はその原因が不明なものが多く、将来への不安が子供の発達のごく初期から生じてしまうことから、長期に継続した治療教育が必要となります。従って講義では、単なる知識としてだけでなく、実際の療育活動からの事例を交えながら諸君の感性に訴えていきます。常に感じ・考え受けとめながら私のいう“心理療育”のこころと自己表現も学んで欲しいと思います。

●学習内容(授業計画)

1. 障害児教育の歴史
2. 発達検査、知能検査
3. 心理療法について
4. 治療関係の中で“怒る”“叱る”について
5. 動機づけの話し＝“気”“やる気”“その気”について
6. 基本障害について→個々の多様性を認めるとは？
7. 療育トレーニングの実際（目的と内容）
8. 家族の思い・両親のこころ
9. 自分とは？自分自身について（福祉臨床の中で）
10. 症例検討
11. コミュニケーションとカウンセリング
12. 療育用語集
13. 人間の福祉・障害児（者）の福祉とは
14. 人として何ができるのか、いかにかわるのか
15. 生涯援助について

●準備学習・事後学習の内容

準備：毎回の授業ごとに、関心のある事項について下調べをすること。

事後：毎回の授業で学習したキーワードについて書き出しておく。

●成績評価方法・基準

後期学期末試験の成績 8 割、ボランティア等の活動実践の取り組みなど 2 割

●テキスト（必携）

随時コピーを頒布する

●参考文献／その他

随時紹介する

基礎として、発達心理学・臨床心理学・乳幼児保健等の関連科目の履修が可能な範囲で必要である。

●履修上の注意

特になし